

令和4年(2022年)8月31日

## TRC-ADEAC 株式会社の大井将生さんが 「デジタルアーカイブジャパン・アワード(DAJ アワード)2022」 を受賞しました

TRC-ADEAC 株式会社(本社:東京都文京区 代表取締役:稲垣実、以下「TRC-ADEAC」)に所属する大井将生さんが、デジタルアーカイブジャパン推進委員会実務者検討委員会主催の「デジタルアーカイブジャパン・アワード(DAJ アワード)2022」を受賞しました。個人での受賞は本件のみとなっています。

### 大井将生さん 受賞の概要

#### 受賞理由

ジャパンサーチ<sup>(※)</sup>のキュレーション機能を用いた調べ学習授業を積極的に推進し、初等中等教育におけるデジタルアーカイブを活用したハイブリッド型学習のあり方を提示したこと、および教員だけでなく、博物館・美術館・文書館、図書館などさまざまなアクターと共創し、社会実装を視野に入れた実践的な取組を多数行うなど、デジタルアーカイブの教育活用・実践における活動が高く評価されました。

※ジャパンサーチ:書籍・公文書・文化財・美術・人文学・自然史/理工学・学術資産・放送番組・映画など、我が国が保有するさまざまな分野のコンテンツのメタデータを検索・閲覧・活用できるプラットフォーム。国立国会図書館がシステムを運用。

#### 受賞のことば

大変名誉な賞を賜り、身に余る光栄でございます。受賞に関わる研究では、渡邊英徳先生をはじめ、実践校の皆さん、TRC-ADEAC、国立国会図書館、S×UKILAM 連携に参画された全国各地の小中高の先生や図書館・博物館・文書館・美術館・大学・企業・NPO 関係者の皆様にご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。今後も多様な資料を協創的に子どもたちの豊かな学びに繋がられるよう、研究と修養に努めます。

### 「デジタルアーカイブジャパン・アワード(DAJ アワード)」とは

デジタルアーカイブの拡充や利活用の促進に積極的に取り組むアーカイブ機関や、データを集約してジャパンサーチに届けるつなぎ役、活用者をはじめとしたステークホルダーを顕彰し、その活動を広く社会に紹介することで、デジタルアーカイブが日常に溶け込んだ豊かな創造的社会的実現を目指す目的で作られたアワードです。主に以下5つの観点に基づき受賞者が選定されます。

1. オープン化の推進
2. つなぎ役としての貢献
3. 利活用の促進
4. 地域情報の発信
5. その他の貢献(新サービス、人材育成など)



詳しくはこちら <https://jpsearch.go.jp/daj-award-2022>

- お問い合わせ先 -